

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3771300427
法人名	株式会社讃光
事業所名	グループホームくすの木
所在地	香川県木田郡三木町池戸2362番地 (電話) 087-840-2355

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価決定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(19年 8月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 4月 16日
ユニット数	2ユニット 利用定員数 18人
職員数	14人 常勤 11人、非常勤 3人、常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階 ~ 2階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	5,000円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (30,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	67歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	讃陽堂松原病院 十河歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「くすの木」は、旧長尾街道筋の大きな楠を目指して訪れると、三角屋根のしゃれた建物である。隣接して、同一法人が経営する医療機関、ナーシングホーム、デイサービスセンターがあり、行事や研修会などは日常的に連携し、協力体制を確立している。ホーム内は温かい色調の照明を使用しており、季節の花が活けられ、家庭的な雰囲気である。利用者は穏やかな表情で過ごしており、介護従事者の細やかな配慮が感じられる。
個別ファイルや連絡ノートには利用者の状態が詳細に記載されており、全職員が日常的に支援サービスの質の向上に努めている。今後、地域の中でその人らしい生活ができるように、支援サービス活動が展開されることが期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念を玄関の見やすい場所に掲示し、ホーム便りを作成し、家族に利用者の状況を定期的に報告している。感染症対策やヒヤリハット対策などは、担当者を決めてマニュアルを作成し、同一法人と共同で勉強会を行い、全職員に周知する等、前回の評価の改善課題に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義と必要性を全職員が認識しており、管理者を中心に、ミーティングで意見を出し合い、各ユニットで自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの行事などの事業内容を報告し、情報交換している。ホームの機能と役割、介護保険や認知症についての知識の勉強会をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情・相談箱を設置して、家族に利用するように説明している。また、面会時には、さりげなく意見や苦情を聞いて、職員間で検討し、サービスに反映するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りなどの地域行事に参加したり、ホームのイベント開催時に、パンフレットを配布して、参加を呼びかけている。また、地域のボランティアが毎月訪れ、踊りやカラオケなどで入居者と交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念を作成し、全職員へ周知している。また、ホーム玄関の見やすい所に、理念を掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や介護従事者は、理念を認識しており、日常的に話し合い、支援サービスに取り組んでいる。	○	理念を具体化し、「明るく、元気よく、笑顔で」という法人全体の統一した年間目標を作成し、見やすい所に掲示している。職員は業務の引継ぎ時など、日常的に話し合い、支援サービスに取り組んでいる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなどの地域行事に参加したり、ホームのイベント開催時には、近隣に案内状を配布して、参加を呼びかけている。また、地域のボランティアの定期的な訪問を受ける等、地域住民との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義と目的を理解し、自己評価には全職員が意見交換し、作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事など事業内容を報告し、意見交換をしている。また、本人や家族と食事会をして、ホームの機能や認知症の理解が得られるように努めている。	○	運営推進会議に、消防署や派出所など、地域の専門分野の参加と協力を得て、具体的なサービスの実践に取り組んでいくことが望れる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、定期的に連絡会を実施し、情報や意見の交換をして、支援サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの発行や面会時に利用者の状況を報告している。又、状態の変化により随時連絡を取っている。預かり金はレシートを添付し残金の確認を得るようにしている		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置して、苦情などを受け付けている。また、家族の面会時の何げない会話から、意見や希望などを把握して、運営に反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な職員の異動はしていない。異動は、できるだけ最小限に留めるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人内で、勉強会を定期的実施している。また、事業主は、資格習得や研修会への参加に理解があり、協力的である。また、研修後は、全職員に周知して資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の福祉施設や協力機関と定例会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームに来ていただき、お茶や食事を共にしていただいたり、ホームの行事に参加してもらうようしている。また、利用予定先の職員が対応して、馴染みの関係を作るようしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、裁縫や山菜の調理方法を教わる等、利用者一人ひとりの得意分野で活動でき、共に支え合う関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活の状態や意向が、個人ファイルに詳細に記入されており、全職員が共有して支援するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中から個々の状態を把握し、本人や家族の意向、希望を取り入れて、その人らしい生活ができるように介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を3か月ごとに見直しているが、心身機能の状態に応じて関係者と話し合い、随時見直しを行っている。	○	個別ファイルや連絡ノートに、利用者日々の状態が詳細に記録されており、ケアサービスに前向きに取り組む職員の努力がうかがえる。介護の課題、目標、成果を明確に捉えることができるように、記載方法の工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空室ができると市町に報告しており、短期入所や一時預かり等の在宅支援が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の受診を希望される方には、継続して受けられるように支援している。協力医療機関と日常的に連携をとり、往診や緊急時の支援が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、本人や家族の意向に沿って、関係者が十分に話し合い、情報を共有し支援するように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は食事時の支援や排泄介助など、さりげなく声かけし、対応している。また、記録等の取り扱いにも配慮し、プライバシーの保護に努めている。	○	トイレ使用中の確認が十分にできにくいように思われるので、プライバシーの保護の観点から、使用中の表示方法を工夫することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは設定されているが、その日の状況や個々の習慣、希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週の献立表は作成されているが、利用者の希望で、おはぎやお好み焼きなどの手作り料理と一緒に作り、楽しんでいる。職員は利用者と共に食事をして、調理方法や味つけ等を話し合っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は最低週2回と設定しているが、入浴日や回数は、本人の希望や体調に合わせて、入浴をしていただくように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や力量によって、ホーム内に花を生けたり、手芸や習字をしている。また、洗濯物たたみ等の役割を持って、生きがいにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には、ホームの前庭に散歩に出るようにしている。また、利用者の希望に添って、全員で外食に出かけることもあり、入居者は楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口にはチャイムを設置しており、日中は個別に利用者の状況を把握して対応し、日中はできるだけ施錠しないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力により、同一法人の施設と共同で避難訓練を実施している。日頃から、災害時に慌てないように利用者話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病食や減塩食等、個々の健康状態に合わせて支援している。食事の摂取量の確認やペットボトルを利用して、水分補給の確保に工夫し、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は温かい感じの照明が使用されており、座り心地のよいソファや季節の花を生ける等、安げる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品、花や写真を飾るなど、その人らしい居室になっている。茶碗や箸、湯呑み等は、本人の使い慣れたものを持参して、使用している。		